

所属	生涯福祉研究科 生涯福祉専攻 修士課程	修了年度	平成 24 年度
氏名	橋本 樹	指導教員	谷田貝 公昭

論文題目	<p style="text-align: center;"><b>幼児の基本的生活習慣</b>  <b>～発達基準の設定・76 年の変化および幼保の比較～</b></p>
------	--

### 本文概要

#### 1. 研究目的

76 年前に作成された山下俊郎の発達基準と同じ内容の調査を行い、現在の子どもの生活習慣を明らかにし、新たな基準の設定を試みる。また、幼稚園と保育所に通う幼児に、基本的生活習慣の習得の差異を求めたい。

#### II. 研究方法

関東圏都市部の幼稚園・保育所に通う幼児の保護者を対象に、昭和 11 年に行われた山下調査と同様のもの質問紙法を用いた。

#### III. 研究結果と考察および今後の課題

##### 研究結果

食事の習慣では、現代の子どもの方が箸の使用が遅れている。食事・睡眠の習慣の挨拶においては早くなっている。しかし、睡眠の習慣では他の項目においては、大きく遅れている、また身に付いていないものも多くある。排泄の習慣においては、山下調査では各年齢段階に分かれているが、本調査では 3 歳半～4 歳半頃に、全体的に集中している。着脱衣の習慣においては、全体として早まっている。しかし、紐を結ぶことにおいては、遅くなっている。清潔の習慣も、全体的に早くなっている。

幼保の比較では、着脱衣の習慣において大きな差が見られた。また、オムツが不要となるのは幼稚園の方が早い結果となった男女の比較においては、全体的に女子の方が出来る傾向が見られた。

##### 考察および今後の課題

本調査の方が早くなっているものもあるが、全体としては遅くなっている。時代・社会の変化によって、幼児の基本的生活習慣にも変化があった。本研究において、76 年前と現代の子ども達において、基本的生活習慣の習得が早いもの・遅いもの・大きく変わらないものが明らかとなった。また、幼保・男女においても同様の事を明らかにした。基本的生活習慣の習得が早ければ良い、と断言することは出来ない。しかし、遅くなっているものにおいては、なんらかの原因があり、そこには問題視しなくてはならないことも存在するのではないかと。

現代の子どもには、様々な問題がある。また、表に見える問題ももちろんのこと、他にも小さな多くの問題を抱えているだろう。そのような問題の要因の 1 つとして、基本的生活習慣の問題も関係してくるのではないだろうか。基本的生活習慣が身に付かない、つまり子どもが一人で自立しない為に、そのような大きな問題にも繋がってしまう影響があるのではないだろうか。